



リークされたエネルギー関連附属書の分析により、**TISA** が **COP21** のアクションの土台をむしばむことが明らかに

グリーンピース、労働組合、そして世界貿易ネットワークの「われわれの世界は売り物ではない (OWINFS)」が、先ごろ非公開で交渉された貿易協定 **TISA** が、気候変動に対するアクションの土台をむしばむものであることを明らかにした。

世界の労働者 2 千万人を代表する世界的な労働組合連盟、国際公務労連 (PSI) が本日発表した報告書によると、6 月 1 日にパリの OECD で開かれる **TISA** 閣僚会合で、10 年前に拒否された提案が再び議論されるという。これは、12 月の **COP21** サミットと今月ボンで開かれる気候変動に関する会議で実現した前進を損ねるものとなる。

「パリ協定を施行する用意でいた各国政府は、通称大臣が **TISA** 交渉での努力をないがしろにしていると感じるかもしれない」と記すのは「**TISA Vs Climate Action: Trading Away Energy Democracy** (TISA 対気候アクション: エネルギー民主主義と引き換えに)」。先ごろリークされたエネルギー関連サービスに関する **TISA** 附属書を詳しく分析した書類だ。

「**TISA** はエンロンとハリバートンが 2005 年に提案し、米国の交渉担当者が拒否したアイデアを再利用するもの。エネルギーの規制は技術的に中立なものでなければならないという提案は、気候変動政策の変更で、化石燃料業界が影響を受けないようにするための試みである」と警告するのは、国際貿易を専門とするジョージタウン大学法科大学院 (ワシントン) の **ロバート・スタンバーグ** 教授。

「これは米国、カナダ、欧州ほか各地で再生可能エネルギーを推進するために導入された現行の規制と財政インセンティブに反するものである。実施によって、今後のエネルギー関連雇用の前進を遅れることになりかねない」と語る。

TISA Vs Climate Action は、この合意が、化石燃料の利用を拡大し、気候変動を悪化させる可能性がある」と強調する。**TISA** 交渉に参加する各国に、エネルギー源に関係なくすべてのエネルギー事業者を平等に扱うことを義務付けると、クリーンエネルギー技術を推進し、石炭や石油など汚染を発生させるエネルギー源からの離脱を図る取り組みがそがれる恐れがある。

報告書は、ジュネーブとパリで行われた **TISA** 抗議運動 (以下参照) に合わせて発表する。また、これに先立ち、[先ごろ、グリーンピースオランダが TTIP 文書をリーク](#)している。この文書は、貿易協定が気候変動に対する運動の土台を崩しているとの懸念を広めた。

グリーンピースの国際 TTIP キャンペーン担当者、**スーザン・コーエン・ヨラム** は次のように語っている。「このリークは、**TISA** が他の貿易協定と同様に、気候変動に関するパリ協定の施行を試みる政策立案者の自由を奪うことを明らかにした。

貿易協定は、気候政策を邪魔するのではなく、気候アクションを促すものでなければならない。**TISA**、**TTIP**、**CETA** といった貿易協定が、非公開で交渉され、市民と環境が犠牲になることは許されない。大企業に利益をもたらすために環境保護を犠牲にするのではなく、新たな貿易協定を通じて、気候変動と透明性を前面に押し出すことが求められる」

PSI のローザ・パヴァネリ書記長は、政府が交渉を隠し、非公開で結論を導く理由が明らかになりつつあるとし、次のように述べた。「パリで合意されたささやかな目標を達成するための手段が、地球最大の企業の利益のためにないがしろにされつつある」

「つまり、TiSA が一度合意されたら、各国政府にはその基準を定義する権限はほとんど与えられない。この問題は、気候、そして地球の未来にとって深刻な問題となるだけでなく、大企業の利益の支配下に置かれた現在の民主主義にとっても大きな問題である」

世界的な貿易ネットワーク「われわれの世界は売り物でない (**Our World Is Not For Sale**)」のデボラ・ジェームズは、「世界の主要エネルギー源の 80%以上が、温室効果ガスを排出する化石燃料であることを考えると、クリーンエネルギーへの移行を妨げるものはすべて、地球に有害である」と訴えている。

PSI では、グローバル化に関する国際フォーラムのエグゼクティブディレクター、ビクター・メノッティが調査をまとめている。彼はこれまでも、世界貿易が生態系に与える影響を詳しく研究し、調査結果をまとめてきた。

PSI はまた、TiSA が世界のエネルギー主権と世界各国での市民の気候アクションにどのような影響を与えるかをストーリーに仕立てた動画を公開している：

[\[https://www.youtube.com/watch?v=BfRcOEIqSRM\]](https://www.youtube.com/watch?v=BfRcOEIqSRM)

PSI は以前にも、TiSA がいかに[失敗した民営化事業の最公営化を阻止する](#)かを調査した研究報告をリリースした。また、TiSA がいかに[政府の規制能力を制限するの](#)かについても調査をまとめている。

ジュネーブとパリでの抗議運動

抗議運動参加者は、TiSA が民主主義の土台をむしばむとして、怒りをあらわにしている。この問題を懸念する市民、労働組合、市民社会組織は、本日 (30 日) の正午に、ジュネーブの EU ミッション (Rue du Grand-Pré, 64) で一堂に会し、TiSA 参加国の大使が交渉内容を議論する傍ら、抗議運動を行う予定だ。

第 18 回 TiSA 交渉は、5 月 26 日にジュネーブで始まり、6 月 3 日に終了する。今回は、6 月 1 日にパリの OECD でスタートする TiSA 閣僚会合と時を同じくする。

パリでの会合でも、TiSA および同様の非民主的貿易協定を非難するフランスの学生、労働者、学者のコミュニティ、Nuit Debout の抗議運動が行われることが期待されている。

世界的な抗議運動は、TiSA の危険性を特定するにあたって、ウィキリークスの情報だけに頼らざるをえない。そのため、市民が交渉を進めるかどうかを民主的に決定することができるよう、首脳らが協定の全文を公開することを訴えている。

TiSA に関する注釈

新サービス貿易協定 (TiSA) は、世界のサービス部門ほぼ全体に適用される貿易協定で、米国、カナダ、オーストラリア、日本、コロンビア、コスタリカ、ペルー、EU28 か国など世界 50 か国が非公開で交渉してきた。ウルグアイとパラグアイは先ごろ、市民による激しい抗議の中、交渉から撤退した。

実態が知られていないこの貿易取引の交渉に参加する 50 か国は、世界のサービス部門の実に 70%を占めている。

以上

詳しい情報は以下を参照：

ビクター・メノッティ本人へのお問い合わせはこちら：1 415 351 8065、vmenotti@ifg.org

ロバート・スタンバーグ教授本人へのお問い合わせはこちら：+1 202 409 1012、

stumberg@law.georgetown.edu

TISA 対気候アクション (TiSA Vs Climate Action) : 「[\[http://www.world-psi.org/en/node/8826\]](http://www.world-psi.org/en/node/8826)

リーク文書：[\[https://wikileaks.org/tisa/\]](https://wikileaks.org/tisa/)

メディア担当者：

ダニエル・ベルトッサ (PSI 政策ガバナンス担当ディレクター) : +33 617 462 552 -

daniel.bertossa@world-psi.org

マルセロ・ネット (PSI コミュニケーション部門担当) : +33 788 389 140、[marcelo.netto@world-](mailto:marcelo.netto@world-psi.org)

[psi.org](mailto:marcelo.netto@world-psi.org)

デイブ・ウォルシュ (グリーンピース、コミュニケーションマネージャー) : +34 691 826 764、

dwalsh@greenpeace.org

デボラ・ジェームズ, (我々の世界は売り物ではない (OWINFS) ネットワーク、国際プログラム担当ディレクター) : +1 202 293 5380 x111、djames@cepr.net